

アルゴリズムとデータ構造III 12回目:1月8日(木)

全文検索アルゴリズム
(Aho-Corasick)
暗号・符号化・テキスト圧縮

授業資料 <http://ir.cs.yamanashi.ac.jp/~ysuzuki/algorithm3/index.html>

1

授業の予定(中間試験まで)

1	10/02	スタック (後置記法で書かれた式の計算)
2	10/09	チューリング機械, 文脈自由文法
3	10/16	構文解析 CYK法
4	10/23	構文解析 CYK法
5	10/30	構文解析(チャート法), グラフ(ダイクストラ法)
6	11/06	構文解析(チャート法), グラフ(ダイクストラ法, DPマッチング)
7	11/13	グラフ(DPマッチング, A*アルゴリズム)
8	11/20	グラフ(A*アルゴリズム), 前半のまとめ
9	11/27	中間試験

2

授業の予定(中間試験以降)

10	12/04	全文検索アルゴリズム (simple search, KMP)
11	12/18	全文検索アルゴリズム (BM, Aho-Corasick)
12	01/08	全文検索アルゴリズム (Aho-Corasick), データ圧縮
13	01/15	暗号(黄金虫, 踊る人形) 符号化(モールス信号, Zipfの法則, ハフマン符号)テキスト圧縮
14	01/29	テキスト圧縮 (zip), 音声圧縮 (ADPCM, MP3, CELP), 画像圧縮 (JPEG)
15	02/05	期末試験

3

本日のメニュー

- 全文検索アルゴリズム
 - Aho-Corasickの続き
- 暗号
 - 黄金虫 (The gold bug)
 - 踊る人形 (The Adventure of the Dancing Men)
- 符号化
- テキスト圧縮

4

全文検索

- 文書中から、与えられた文字列と完全に一致する部分を探し出す.
- 全文検索の種類
 - 文字列照合による全文検索
 - 索引を用いた全文検索

5

文字列照合タスク

- テキスト処理には不可欠
- テキスト文字列からキーワードとその出現位置を見つける
- 例
 - テキスト文字列:aabcdabdabbabcdabacade
 - キーワード:abcaba

a	b	c	a	b	c	a	b	a	b	c	a
			a	b	c	a	b				
						a	b	c	a	b	a

文字列照合アルゴリズム

- Simple Search
 - Knuth-Morris-Pratt法
 - Boyer-Moore法
 - Aho-Corasick法

7

文字列照合問題の単純な解決法 Simple Search

- Simple Searchの文字列照合手順
 - Simple Searchのアルゴリズム
 - Simple Searchの評価

8

単純な文字列照合アルゴリズム Simple Search

- テキストストリングの1文字目からn文字目まで, 2文字目からn+1文字目まで, ...がキーワードと一致するかどうかをチェックする.

a	b	c	a	b	c	a	b	a	b	c	a	b	x	a	b	c	a
a	b	c	a	b	a												
	a	b	c	a	b	a											
		a	b	c	a	b	a										
			a	b	c	a	b	a									
				a	b	c	a	b	a								
					a	b	c	a	b	a							
						a	b	c	a	b	a						
							a	b	c	a	b	a					
								a	b	c	a	b	a				
									a	b	c	a	b	a			
										a	b	c	a	b	a		
											a	b	c	a	b	a	
												a	b	c	a	b	

9

Simple Search 同じ部分を何度も照合しなければならない

Simple Searchのアルゴリズム

- 入力: テキストストリング `text`, キーワード `key`
 - 出力: テキストストリング中のキーワードの位置
 - `m`: テキストストリングの長さ

```

Method      □ m: テキストストリングの長さ
begin       □ n: キーワードの長さ
            for i:=1 to m-n+1 do          起点を決めて
            begin
                for j:=1 to n do          キーワードと1字ずつ照合
                    if text[i+j-1]≠key[j] then
                        goto 1;
                    print i;
                1:
            end

```

11

Simple Search 最も効率の悪い場合

文字照合回数 $(7-3+1)*3=15$
 $(m-n+1)*n$ 回
一般に $m \gg n$ ので $O(mn)$

- key = aaa
text = aaaaaaaaa

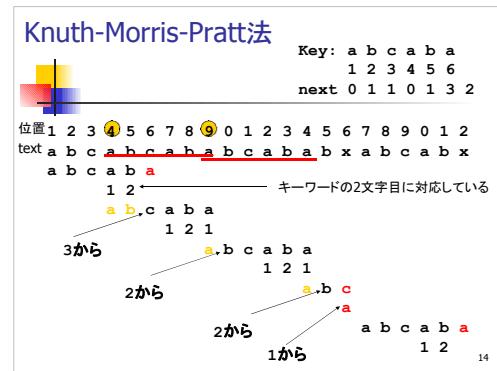
text = dddddd							
位置	1	2	3	4	5	6	7
text	a	a	a	a	a	a	a
	a	a	a				
	a	a	a				
		a	a	a			
			a	a	a		
				a	a	a	
					a	a	a
照合回数	1	2	3	3	3	2	1

12

Knuth-Morris-Pratt法 (KMP法)

- Simple Search
 - テキストストリング中の各文字がキーワードと複数回照合される → 冗長
- KMP法
 - 文字照合の実行中に次回の文字照合を考慮しつつ処理を進める
 - 文字照合中、バックトラックが必要ない

13



KMP法 アルゴリズム

```

Method kmp
begin
  j:=1;
  for i:=1 to m do
    begin
      while j>0 and key[j] ≠ text[i] do 照合
        j:=next(j); つぎの照合位置
      if j=n then
        print i-n+1; 照合成功
      j:=j+1;
    end
end

```

m :textの長さ
n :keywordの長さ
i: textの照合位置
j: keywordの照合位置

15

キーワードの接頭辞文字列の出現位置

関数next: 次回の照合でキーワードの何文字目を照合すべきか
テキストストリング中の照合に失敗した文字の直前の何文字がキーワードの接頭辞になっているか調べる

位置	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
キーワード	a	b	c	a	b	a									
6文字目で照合失敗した場合: 直前文字列がabなので3文字目から照合開始				a	b	c	a	b	a						
照合に成功した場合: 直前文字がaなので2文字目から照合開始					a	b	c	a	b	a					
next関数値	0	1	1	0	1	3	2								

16

next関数 Keyword: abcabaのとき a:1 : keywordの一文字目のa
123456 a: a以外の文字

1文字目のaで照合失敗 (直前の文字が**a**)
→ 照合失敗箇所の右隣とa:1を照合
→ 照合失敗箇所はキーワードの0文字目と照合→ next(1)=0

2文字目のbで照合失敗 (直前の文字が**ab**)
→ 照合失敗箇所とa:1を照合 → next(2)=1

3文字目のcで照合失敗 (直前の文字が**abc**)
→ 照合失敗箇所とa:1を照合 → next(3)=1

17

next関数 Keyword: abcabaのとき a:1 : keywordの一文字目のa
123456 a: a以外の文字

4文字目のaで照合失敗 (直前の文字が**abca**)
→ 照合失敗箇所の右隣とa:1を照合
→ 照合失敗箇所はキーワードの0文字目と照合→ next(4)=0

5文字目のbで照合失敗 (直前の文字が**abcab**)
→ 照合失敗箇所とa:1を照合 → next(5)=1

6文字目のaで照合失敗 (直前の文字が**abcaba**)
→ 照合失敗箇所とc:3を照合 → next(6)=3

6文字目のaで照合成功 (直前の文字が**abcaba**)
→ 照合失敗箇所(照合成功末尾の右隣)とb:2を照合 → next(7)=2

KMP法 アルゴリズム next関数 入力:キーワード key, 出力:next関数

```

Method next
begin
    n : keyの長さ
    j : keyの照合位置
    t : keyの文字目の直前の何文字目がkeyの接頭辞になっているか
    t:=0;
    next(1):=0;
    for j:=1 to n do      keyの各文字に対してnext関数値を計算
    begin
        while t ≠ 0 and key[j] ≠ key[t] do
            t:=next(t);   keyの文字目までの文字列がkeyの
                           接頭辞と一致しているか調べる
        if key[j+1]=key[t] then   keyの
            next(j+1):=next(t); j+1文字目の
        else                      next関数値を
            next(j+1):=t;       決定
        end
    end
end

```

19

KMP法の評価

■ KMP法

- 漸近的時間計算量 $O(m)$
- next関数が必要 テキスト文字列の各文字に対して1回照合

■ Simple Search法

- 漸近的時間計算量 $O(mn)$
- テキスト文字列の各文字に対して
キーワード文字数回照合

m: テキスト文字列数
n: キーワード文字列数

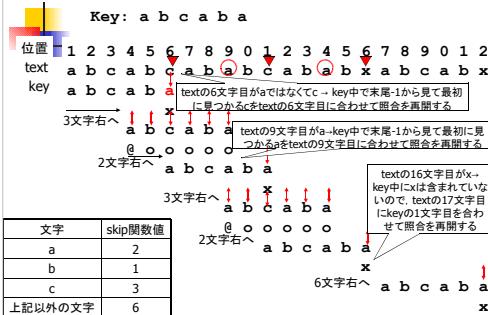
20

Boyer-Moore法

- キーワードの末尾から照合を行う。
- キーワードの末尾と照合したテキストストリングの文字を覚えておく
- その文字とキーワードの文字が一致するまでキーワードをずらす

21

Boyer-Moore法



skip関数

- テキスト文字列中の照合文字cが、キーワードの末尾から何文字目にあるか

?????a abcaba 6543210	?????b abcaba 6543210	?????c abcaba 6543210	?????x abcaba 6543210
キーワード "a b c a b a"に対するskip関数			
a	2	b	1
c	3		
上記以外の文字	6		

23

BM法による文字列照合

```

Method BM
begin
    pos:=n;
    while pos<=m do
    begin
        if text[pos]=key[n] then
            begin
                k:=pos-1;
                j:=n-1;
                while j>0 and text[k]=key[j] do
                    begin
                        k:=k-1;
                        j:=j-1;
                    end
                if j=0 then
                    print k+1;
            end
        pos:=pos+skip(text[pos]);
    end
end

```

m :textの長さ
n :keywordの長さ
j : keywordの照合位置
pos: text中の照合位置

BM法による文字列照合 skip関数

入力: キーワード key
出力: skip関数

```

Method skip
begin
    for i:=p to q do      初期設定(全ての文字種で
        skip(i):=n;       keyの長さだけskip)
    for i:=1 to n-1 do    Keyに含まれる文字種の場合
        skip(key[i]):=n-i; keyの先頭から末尾まで調べて
    end                   最後に見つかった位置をkey
                        の長さから引いた数だけskip
                        する

```

文字種:p~q

25

BM法の評価

- 最良の場合 m/n 回の文字照合
 $text$ の文字 \cap keyの文字 = \emptyset
- 最悪の場合 $m \times n$ 回の文字照合
 $text$ の文字 = keyの文字 = {a}
- キーワードが長いほど高速
 - keyに含まれない文字がtextに出現したときにkeyの長さだけスキップできる
- 文字種類数が少ないほど遅くなる
 - text中の文字がkey中に現れる確率が高くなる → 遅くなる

26

Aho-Corasick法

- マシンAC
- AC法の文字列照合手順
- AC法の文字列照合アルゴリズム
- AC法の評価
- マシンACの構成方法

27

Aho-Corasick法

- 文書中から複数のキーワードを検索するための手法
- テキストストリングをバックトラックすることなく1回走査するだけで、複数のキーワードを同時に検出することができる
- goto関数, failure関数, output関数により構成される

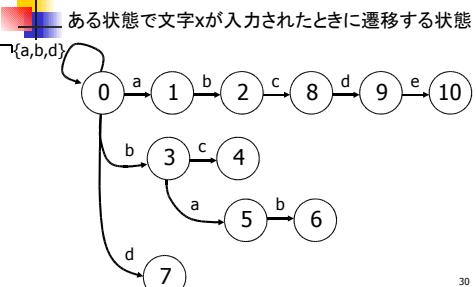
28

goto関数, failure関数, output関数

- goto関数
 - ある状態で文字xが入力されたときに遷移する状態
- failure関数
 - goto関数からfailが返された際の照合ポインタの移動先
- output関数
 - ある状態に遷移したときに検出できるキーワード

29

キーワード
{“ab”, “bc”, “bab”, “d”, “abcde”}



30

マシンAC failure関数

goto関数からfailが返された際の照合ポインタの移動先

s	f(s)
1	0
2	3
3	0
4	0
5	1
6	2
7	0
8	4
9	7
10	0

31

マシンAC output関数

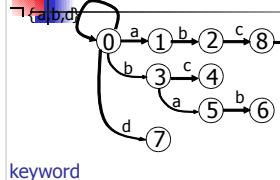
ある状態に遷移したときに検出できるキーワード

s	output(s)
2	{"ab"}
4	{"bc"}
6	{"bab", "ab"}
7	{"d"}
8	{"bc"}
9	{"d"}
10	{"abcde"}

32

照合ポインタの遷移

テキストストリング "xbabcdex"



keyword

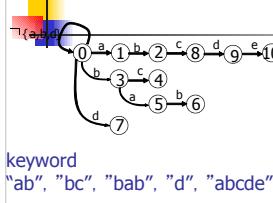
"ab", "bc", "bab", "d", "abcde"

s	f(s)
1	0
2	3
3	0
4	0
5	1
6	2
7	0
8	4
9	7
10	0

35

照合ポインタの遷移

テキストストリング "xbabcdex"



keyword

"ab", "bc", "bab", "d", "abcde"

s	f(s)
1	0
2	3
3	0
4	0
5	1
6	2
7	0
8	4
9	7
10	0

入力文字

x b a b c d e x

goto関数による遷移

failure関数による遷移

練習問題 照合ポインタの遷移

テキストストリング "abcdcbca"

keyword

"ab", "bc", "bab", "d", "abcde"

s	f(s)
1	0
2	3
3	0
4	0
5	1
6	2
7	0
8	4
9	7
10	0

入力文字

a b c d b c b a

goto関数による遷移

failure関数による遷移

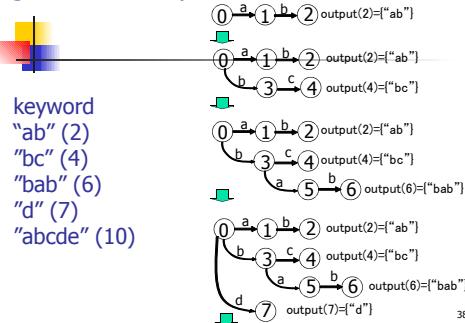
36

マシンACの構成方法

- goto関数とoutput関数の構成方法
- failure関数の構成方法

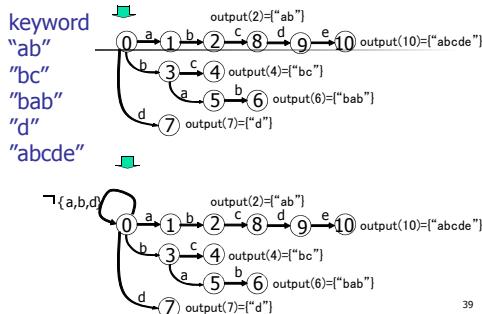
37

goto関数とoutput関数の構成方法 1/2



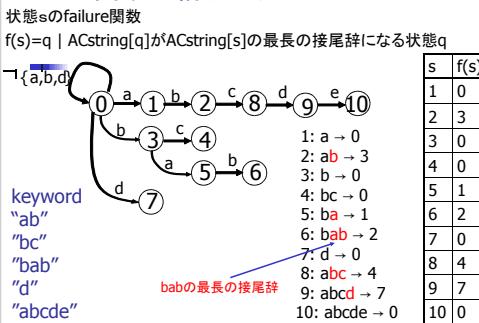
38

goto関数とoutput関数の構成方法 2/2



39

failure関数の構成方法



データ圧縮

- 対象データ
 - テキスト
 - 音声
 - 音楽
 - 話し声
 - 画像
 - 動画
- 圧縮方式
 - 可逆圧縮(ロスレス圧縮)
 - 非可逆圧縮(ロッシー圧縮)

41

モールス信号の符号

- ・(短点)と-(長点)を用いてアルファベットを表現する
- 情報を早く送るための工夫
 - よく使われる文字(例えばe,t)は短い
 - e: · (短点1文字)
 - t: - (長点1文字)
 - あまり使われない文字(例えばqは4文字)は長い
 - q: - - - -

42

モールス信号の符号

- ·(短点)と–(長点:短点3つ分の長さ)を用いてアルファベットを表現する
- 区切り記号
 - 文字の切れ目:短点3つ分の間隔
 - 単語の切れ目:短点7つ分の間隔
- L: ···· (LifeカードのCMIに使われていた)
- SOS: ··· —— ···